

現代社会を見つめて 11

情報サービス課 石美 真也

『共存共栄の日中経済』 関志雄 著（東洋経済新報社） xii, 234p. 20cm

中国経済は発展を続けており、世界から注目されています。経済が低迷していた日本には、中国経済は大変な脅威に思われたかもしれませんが、しかし、中国の経済発展は日本にとってビジネスチャンスでもあります。中国経済と共に日本経済が発展するには、日本はどのように行動するべきでしょうか。

本書では、日本と中国の経済は補完関係にあるとし、日本は中国とどのような関係を構築していくべきかが分析されています。この補完関係は、経済において日本が強い分野では中国が弱く、中国が強い分野では日本が弱いという関係であり、お互いに強みを活かし、弱みを補うことが日本の経済発展につながるということです。動向が世界経済に大きく影響を与える中国経済と、日本はどのように付き合っていくべきか考えてみましょう。

332.22-Kan

『インド経済の基礎知識』 椎野幸平 著（ジエトロ） 143p. 21cm

外国の経済について、アメリカや中国などの話題はよく耳にするとと思いますが、インドの経済についてどの程度聞いたことがあるのでしょうか。現在のところ日本では、インドの経済について報道されることは少ないのではないかと思います。しかし、世界でインドの経済に対する関心は大変高まっています。その理由はどこにあるのでしょうか。

本書では、インドの経済構造や主要産業など、インド経済の概観が解説されています。天候により農林水産業、さらに経済全体が影響を受けるインド特有の「天候リスク」があり、成長率には年により幅があること、自動車、エレクトロニクス、ITサービス、製薬産業が経済の中心であることなど、インド経済の特徴がわかります。日本とインドとのビジネスはそれほど盛んではないですが、着実に拡大する傾向にあります。日本企業にとって、大きなビジネスチャンスがあるかもしれないインドに注目してみましょう。

332.25-Shi

『メコン地域の経済』 槇太一ほか 著（大学出版センター） 212p. 22cm

タイやベトナムなどの国々への旅行に興味を持っている人は多いのではないのでしょうか。日本人の海外旅行で、東南アジア地域は人気がある地域の一つです。しかし、東南アジア地域の国々の情勢は、国により大きく異なります。その違いはどのようなものなのでしょうか。

本書では、メコン川流域であるミャンマー、ラオス、タイ、カンボジア、ベトナムをメコン地域とし、その地域の経済が「開発と観光」という観点から考察されています。メコン地域への旅行者は増加傾向にありますが、国により大きく差があり、経済発展にも差があることがわかります。また、経済発展をしているタイにおける環境破壊や、メコン地域の日本語教育についても解説されており、観光開発により起こる別の側面にも触れられています。これらの国々と日本の交流を考えていくためにも、様々な地域の経済を知ることは必要であると思います。

332.23-Meko



いしみ しんや（司書）